

平成30年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

平成31年4月1日現在

| | | |
|-------|------------------------|--------------|
| 研究課題名 | ヒヴァ・ハン国をめぐる奴隷解放交渉過程の研究 | |
| 申請者 | 氏名 | 所属機関・職 |
| | 塩谷 哲史 | 筑波大学人文社会系・助教 |

研究成果の概要

本研究の目的は、1836年から1842年にかけて活発化したヒヴァ・ハン国の奴隷解放をめぐる外交交渉過程の意義を解明することにあった。

のべ4日間という短期の滞在ではあったが、当初予定していた19世紀ロシア帝国当局から出版されていた定期刊行物（『外務省年報』、『外務省モスクワ中央文書館論集』、『軍事論集』など）の閲覧のみならず、スラブ・ユーラシア研究センターで開催された研究会「外交官から見た近現代日露関係史」に参加し、ロシアの外交交渉史全般について、醍醐龍馬氏（小樽商科大学）、藤本健太郎氏（日本学術振興会／東北大学）、矢嶋光氏（名城大学）ほかとの意見交換の中で新たな知見を得ることができた。

本研究の成果の一部は、『内陸アジア史研究』の学術論文として公表し、その発展版を、英文にまとめて投稿した。後者は現在査読中である。今後の課題は、ニコライ1世期ロシアのアジア外交全般を考察する現在進行中の研究プロジェクトの中に、本研究成果を組みこんでいくことである。

末筆ながらセンターおよび図書室のスタッフの方々に御礼を申し上げたい。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）

塩谷哲史「1842年ガージャール朝使節団のヒヴァ派遣—シーア派捕虜解放問題と英露両国の関与について—」『内陸アジア史研究』33、2018年、51-73頁。（謝辞有）。

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

「ニコライ1世期ロシア帝国のアジア外交」（三菱財団人文科学研究助成）

「ニコライ1世期ロシア帝国のアジア外交—外務省アジア局および地方総督の役割を中心に—」（村田学術振興財団人文・社会科学研究助成）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。